



寄り添い 伸ばす

荒川区立原中学校

学校だより

12月号

令和5年12月4日

荒川区立原中学校

校長 水井 雅史

【 ボランティアのすすめ 】

副校長 谷口 賢

今から40年前の話です。大学4年生だった私は、その日の朝に寝坊をして、いつもより2時間ほど遅れてJRの御茶ノ水駅に到着しました。ちょうど来ていた中央線の快速に乗ろうとしていたら、階段のところから数人の男性の声が聞こえました。「どなたか手伝ってませんか!」「お願いします!」。(どうせ遅れついでだから、手伝うか。)'いいですよ! 手伝います!」。人込みをかき分けて声のした方へ近づくと、車いすに乗った男性と、その周りに3人のサラリーマン風の男性がいました。車いすに乗った男性からは、「ありがとうございます。助かります。」と言われました。(まだ何もしていないのに…。)車いすの前の方を持っていた男性が言いました。「じゃあ、行きますか。せーのっ!」。(そうか、4人で地上の改札まで持ち上げるんだな。)最初の踊り場まで来たとき、「ちょっと待ってください。一度、ここで降りましょう。」私の左側の男性の言葉に救われました。なぜなら、大人が乗った車いすは、とてつもない重さでしたから。「じゃあ、もう一回行きますよ。せーのっ!」何度も手が滑りそうになりながらも、ようやく地上の改札の所に来ました。車いすの男性は、何度も何度も「ありがとうございました。」と言っていました。ふと前を見ると、私以外の3人のサラリーマンは足早に改札を出ていました。私は、「いいえ、とんでもない。では、気を付けて!」と言って、今上ってきた階段を再び駆け下り、大学へと向かいました。(遅刻のことは、もうどうでもいいや!)



これが、私の人生で初めての「ボランティア的体験」です。今はどの駅にもエスカレーターやエレベーターがありますが、当時は車いす用のリフトさえありませんでした。つまり、車いすの方が家から出て働きに行ったり、買い物に行ったりすることは、とても難しい時代でした。大人の方が乗った車いすの重さは、一生忘れないでしょう。ところで、ボランティアって何のためにやるのでしょうか? 「ボランティアは世のため、人のため。いいえ、自分のため。」だと、私は思っています。

今年度、ボランティアに参加した原中生の感想の一部をご紹介します。

- ◆ 私は小さい子供が好きで、将来は保育士になりたいという夢があります。ボランティアに参加したことで、小さい子供たちは私たちに何を伝えたかったのかが良く分かりました。(乳幼児との交流事業活動に参加した3年女子)
- ◆ 前日までにたくさんの準備をしてくださった方々や、当日に会場を盛り上げてくださった方々のおかげで、こどもまつりに来た全ての子供がずっと笑顔で、心が温かくなりました。(町屋こどもまつりに参加した1年女子)
- ◆ 人との関わり方や接し方、その楽しさを学びました。今度は、幅広い年代と関われるボランティア活動に参加したいです。(尾久っ子ワクワクまつりに参加した2年女子)
- ◆ 子供に焼きそばを渡すと、「ありがとう」と言ってきて、仕事の大切さを知りました。笑顔がかわいくて、ボランティアは初めてでしたが、ボランティアの楽しさを知ることができました。これからは、積極的に様々なことに参加したいです。(尾久っ子ワクワクまつりに参加した3年女子)



ボランティアに参加する理由や学んだことは、人それぞれだということが分かります。ボランティアをやる「意味」は、参加した人の数だけあるのです。でもそれは、あなたがボランティアに参加しないと感ずることができないのです。

地域清掃ボランティア (11月20日)

期末考査の翌週、生徒会の呼びかけで50人を超える生徒が参加して、今年度第2回目の地域清掃ボランティアを実施しました。枯れ葉やタバコの吸い殻などのごみを集める作業に、地域の方からねぎらいや感謝の言葉をいただき、参加した生徒の皆さんには地域を愛する心が高まったことでしょう。



原保育園との合同避難訓練 ~助けられる人から助ける人へ~

11月28日(水)2校時に行った、地震による津波を想定した避難訓練。防災ヘルメットをかぶり、救助する側に回って2年生と1年生のA組女子が、原保育園から1歳児~4歳児の園児を原中4階まで避難させました。一人一人の園児の手を取る2年生の顔は真剣そのもの。園児が泣かないかと心配していた生徒たち。園児と対面したとたん、自然と優しい笑顔になっていました。園児のペースに合わせて歩いたり、上半身をかがめたり、階段の昇降時には1歳児を抱っこしたりと、園児に寄り添ったサポートができる生徒たちは、とても頼もしく見えました。蛇足ですが、毎回の避難訓練の際には、一言も話さず、放送で速やかに机の下に身を隠し、真剣に訓練に臨んでいる原中生だからこそ、慌てず、騒がず、思いやりをもって園児を避難させられたのではないかと思います。いざというときが来ないことを願っていますが、有意義な訓練になりました。



今回の避難訓練では、荒川区から貸与された生徒向け折りたたみ式防災ヘルメットを活用しました。卒業までの間、災害発生時に必要に応じて一人一人の安全を確保するためのものです。普段は机の横に袋に入れて吊り下げて保管し、教室移動の場合は、必要に応じて持ち運びます。

英語科ワールドタイム(11月21日)

英語学習の一環として、今回初めて「原中 World Time」を実施しました。実用英語を意識した言語活動で生徒が実際に外国の文化や生活に触れ、積極的に英語を活用する機会を増やす目的です。5人の外国人講師が「観光案内」「入国審査」「レストラン」「旅行会社」「食料品店」の5つの場面を設定した講座のうちの1つを担当して、1回30分の授業を行いました。少人数クラス(1クラス15～18名程度)を編成し、各学年2時間の中で、生徒は5つの講座の中から3つを選択して受講しました。これから更に興味をもって英語の学習に取り組むことを期待します。



《生徒がこの授業で学んだ感想の一部を紹介します》

- ・英語を使って話してみようという気になった。
- ・町で困っている外国人がいるときに生かせる。
- ・海外に行ってみたい気持ちが高まった。
- ・英語はとにかく練習することが大事。
- ・ミスを恐れなくてチャレンジすること。
- ・相槌やジェスチャーなどの表現も大切だということ。

地域の方、専門の方の特別授業

今月はワールドタイムの他にも、外部の専門の方から授業をしていただきました。

◆音楽科1年 和楽器(箏)の授業

2日間の練習で「さくらさくら」を演奏できるようになりました。



◆社会科3年

消費者教育・金融教育の授業

荒川区・早稲田大学との連携で、銀行員の方から経済について具体的な話を伺い考えました。



身近な方への勤労感謝(11月20日)

日頃、私たちのために給食を作ってくださっている調理員さんへ保健給食委員会が感謝の手紙を書き、生徒の皆さんを代表して委員長と副委員長が手紙を渡しました。調理員さんから「残菜も少なく、たくさん給食を食べてくれていて嬉しいです。これからもたくさん食べてもらえる給食を作っていきますね」とのお言葉をいただきました。普段なかなかお会いすることのない調理員さんたちへ、感謝の気持ちをお伝えすることができました。日頃からお世話になっている、たくさんの方々への感謝の気持ちを忘れずに、毎日の学校生活を送りましょう。



読書週間(11月27日～12月8日)

本校では11/27(月)～12/8(金)まで、後期読書週間です。今回の読書週間では「ビブリオバトル」「先生方による読み聞かせ」「先生方のおすすめ本展示」が行われました。今年度3回目となるビブリオバトルでは4名の生徒がバトラーとして参加し、おすすめしたい本について熱のこもった発表を行いました。観戦者からの質問も活発に出て、大変盛り上がりました。また、期間中は毎朝朝読書となりますが、この時間に先生方による読み聞かせも行われ、耳からの読書を楽しみました。



毎年恒例の「先生のおすすめ本コーナー」も大人気で、さっそく貸出をしていく生徒も見られました。

12月行事予定

月	曜	行事	時程
1	金	校外学習(2)	
2	土		
3	日		
4	月	朝礼 安全指導 三者面談① 区学力調査(1・3) 町屋駅前・歳末たすけあい運動街頭 募金ボランティア 17時～18時	B5
5	火	三者面談②	B5
6	水	荒教研	B5
7	木	三者面談③ 区学力調査(2)	B5
8	金	三者面談④ 読書週間終	B5
9	土		
10	日		
11	月	学年朝礼 三者面談⑤ 教育長訪問	B5
12	火	各種委員会 中央委員会	B6
13	水	基礎補充教室 校内研修会	
14	木		
15	金	校外学習(1)	
16	土		
17	日	(都中学校スピーキングテスト予備日)	
18	月	朝礼(表彰) 避難訓練	
19	火		
20	水	基礎補充教室 職員会議	
21	木		
22	金	大掃除 給食終	
23	土		
24	日		
25	月	2学期終業式 校内研修会	3
26	火	冬季休業日始	
1/9	火	3学期始業式	3
10	水	給食始 基礎補充教室 書き初め展始～16日(火)	